

学校教育目標	かしく やさしく たくましく ~ 社会に出て通じる力の育成 ~	経営理念	【ミッション】学校の使命 これからの社会で活躍することができる「力のある子供」の育成 【ビジョン】 ○めざす学校像：共に高まり 成長する学校 ○めざす児童像：進んで学び合う・自分も人も大切にすること・何事も最後までねばり強くやり抜く子供 ○めざす教師像：めざす児童像実現に向け、創意工夫して取り組む教職員
--------	---------------------------------	------	---

評価計画				自己評価				学校運営協議会による評価		改善策				
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善策
							9月	10月						
かしく(知)	1	学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力を付ける。	・基礎・基本の学力の定着・向上を図る。 ・児童が主体的に考え、対話する授業づくりを行う。	・単元テストや学力調査の結果分析の活用 ・下小タイム(朝学習)の充実 ・読書活動の充実	・標準学力調査の平均正答率 ・国語科、算数科の単元テストの平均正答率	平均正答率50以上 単元テスト平均正答率85%以上	標準学力調査 49.1 単元テスト 国語科 81.4% 算数科 76.5%	96%	2	標準学力調査の結果は、国語科・算数科の平均が49.1であり、目標値を下回った。国語科49.1、算数科49.2だった。単元テストの結果は、国語科・算数科の平均が80%であり、目標値である85%を下回った。国語科の正答率は、知識・技能(81.8%)、思考・判断・表現(84%)であった。算数科の正答率は、知識・技能(81.5%)、思考・判断・表現(72.4%)であった。目標値を下回ったが、前期より正答率が上がっており、順調に学力がついていると考えられる。課題のある分野が朝の帯タイムを複数で指導し、学校全体での取組をしたりすることが学力の定着・向上につながっていると考えられる。	3	授業・応用等、工夫が見られるが、より成果が上がるように取り組んでほしい。 課題を明確にし、重点的に取り組んでほしい。 単元テストで定着率が上がっていたので、先立方の努力を認める。 学習中に課題がどのようにつけていくのか確認し、それによって指導を必要とする場面は多い。学習が定着している。	引き続き、朝の帯タイムで個に応じた問題(タブレット)や授業で学習している内容の理解を深めたい。課題のある分野を上げて問題を解いたりするなど、基礎的な学力の定着に努める。また、朝の帯タイムでは担任以外の教職員が指導に入り複数で個に応じた指導を丁寧に行うことや、学校全体で基礎的な学力が定着するよう取組を行う。目標から、教職員間の活用問題にも取り組む。既習の活用仕方について理解を深めたい。	
			・児童が主体的に考え、対話する授業づくりを行う。	・研究推進による授業改善 ・見方・考え方を働かせるための手立てを工夫した授業づくり	児童アンケート ①「課題を認識して、授業に参加している」 ②「自分で自分の考えを伝えようとしている」 ③「教職員アンケート」 ④「深い学びを意識した授業改善をしている」 ⑤「指導の平準化を工夫している」	85%以上	児童アンケート ①87% ②71% 教職員アンケート ①80% ②100%	104%	4	授業に関する児童アンケートの結果を見ると、アンケート①②の肯定的評価の平均は82%であり、目標値を下回った。9月より上がっている。児童は、「課題を認識して、授業には参加している」「自分の考えを伝えようとしている」ことに関しては、ペアやグループで伝えることにも力を入れて取り組んだので肯定的評価も上がっているが、まだ全体の場で発表することを苦手とする児童の中には肯定的評価につながっていない児童もいる。 教職員アンケートの結果を見ると、アンケート①②の肯定的評価の平均は95%であり、目標値を上回った。教員は、指導の手立てを工夫したり授業改善をたしているが、単元テストの結果に基づいて指導していることもあり、引き続き「深い学び」について研究していく必要がある。	3	成果が上がっていると思う。 板書が構造的で見やすいと思う。 ペア、少人数での学習を効果的に活用している。 各授業でしっかりと意見が出されている様子が見られ良いと感じた。積極的に働いている児童にどう対応していくか課題。	引き続き、課題を明確にし、児童に意識させて全員が参加する授業づくりをしていくとし、全体の場で発表するだけでなく、ペアやグループでの自分の考えを伝えるようにしていく。多人数指導が可能な場合は、積極的に関わり、全員が参加し、個に応じた指導ができるようにしていく。 「高学年以上はないうらやう」など、多くの児童が主体的に授業に参加できる授業にするにはどのような工夫ができるのか校内研修や授業改善協議会と協議し、教員間で情報共有して欲しい。また、単元テストの結果とつながると意識して研究をすすめていく。	
やさしく(徳)	2	自他を尊重し、自己指導能力と協働意識を育てる。	・目標を設定し、達成に向けて努力する態度を育てる。	・目標設定と振り返り、評価の工夫 ・児童主体の活動の充実 ・黒瀬スタンダードの推進	・児童・教職員アンケート「目標達成について」 ・黒瀬スタンダードについて	85%以上	児童アンケート 教職員アンケート 100% 児童アンケート 89% 教職員アンケート 100%	102%	4	「目標達成に向けて」に関するアンケートの肯定的評価は、児童85%、教職員100%だった。児童は、日頃から様々な活動に対して目標を持って取り組み、実現させよう努力していると言え、また、教職員も、目標をもって取り組ませよう意識した指導ができていたことがわかる。 黒瀬スタンダードを達成しようとしている児童は多くあり、目標を少し下回った。しかし、児童アンケートの結果を見ると、肯定的評価の平均は95%であり、目標値を上回った。教員は、指導の手立てを工夫したり授業改善をたしているが、単元テストの結果に基づいて指導していることもあり、引き続き「深い学び」について研究していく必要がある。	4	教職員が意識していることが分かり安心した。(黒瀬スタンダード) 成果が上がっていると思う。 教職員が黒瀬スタンダードを意識することで児童も意識が高まっていると感じた。 登下校時の児童の挨拶は増えていると感じる。	「目標達成に向けて」に関しては、来年度も引き続き、様々な活動において、目標を設定し、努力していき姿勢を下黒瀬小学校全体で育てていく。 「黒瀬スタンダード」は中学校区で指導内容を揃えることによる利点が多いため、来年度も教職員と児童が常に意識して取り組むようにする。また、小学校の実態に合わせて、文言や内容の直しなども、中学校区全体で行っていく。	
			・お互いの良さを認め合える集団を育てる。	・安心して過ごせる学級経営、学年経営 ・異学年交流の充実	・児童・教職員アンケート「学級での活動について」 ・異学年交流について	85%以上	児童アンケート 87% 教職員アンケート 100% 児童アンケート 92% 教職員アンケート 100%	113%	4	「学級での活動について」に関するアンケートの肯定的評価は、児童93%、教職員100%だった。給食の会などの楽しいところ見つけたりや学級での活動を通して、友達の良い所を見つけていけるようになった。良い人間関係を築こうとしている児童の姿が確認できた。 「異学年交流について」に関するアンケートの肯定的評価は、児童93%、教職員100%だった。運動場などの関係で異学年交流の時間はあまり取れていないが、6年生がリーダーシップを取って行っている縦割り班が機能していることや、掃除後の振り返り時の今日のMVPの選出や、「後期掃除MVP」の表彰など、異学年間で認められる機会があることが、高い肯定的評価につながっていると考えられる。	4	肯定的評価が高いことに驚いた。 「掃除MVP」は、児童が誇りにしているのでも良い取組と感じる。 成果が上がっていると思う。		
たくましく(体)	3	たくましい気力・体力を養う。	・運動に対する意欲の向上を図る。	・体育科授業における課題意識をもたせる単元デザイン ・運動する機会と時間の工夫による運動量の確保	・児童アンケート「体育科の授業が楽しい」 ・教職員アンケート「児童の体力・技術向上につながる。児童が楽しいと思う体育科授業の指導法を工夫した」	85%以上	児童アンケート 96% 教職員アンケート 100%	107%	4	児童アンケート「体育科の授業が楽しい」の肯定的評価は児童の割合が82%であり、目標値を下回り、9月より下がっていた。学年別に見ると、低学年が94%、中学年が90.7%、高学年が64%であった。この結果から、高学年を中心に持久走や縄跳びなどの冬に学校全体を通して取り組む楽しさを感じられない児童が多いことが考えられる。 また、教職員アンケート「児童が楽しいと思う体育科授業の指導法を工夫した」の肯定的評価は100%と、目標値を上回ることができた。どの教員も友達同士でコンや作戦を話し合う活動を取り入れた、運動量を確保した授業づくりを行っていたことがわかった。	4	児童が楽しいと思う工夫を引き続き追求していただきたい。 指導法を工夫し、成功体験を増やすことで意欲を付けていることを感じた。 成果が上がっていると思う。	引き続き、教職員間で指導法の工夫などの情報共有を行い、体育科の授業改善を行う。特に、児童の運動に対する苦手意識をやわらげ、興味をもたせるため、ゲーム性の活動や、友達と協力し、良いところを伝え合う活動を取り入れた、段階的な指導を中心に取り組むことで成功体験を増やし、自信をたたくていく。また、児童が運動することによる意欲を感じられるように、体育委員会を中心に、みんなで楽しく活動できるように、工夫していく。	
			・生活習慣を見直し、健康の保持増進への意識を高める。	・生活習慣の振り返りの場の設定(スマイルカード) ・食育の推進 ・委員会活動や保護者との連携	・児童アンケート「生活習慣をよりよくしようとしている」	85%以上	早寝68% 朝食90% メディ76.94% 全体計74%	86%	2	朝食を毎日食べた児童の割合は前回より上昇し、目標値を達成したが、早寝をすることとメディア時間を減らすことについては、前回同様目標値を下回っていた。また、早寝できない理由として、「テレビ・ゲームがやめられない」という回答が30%で最も多い理由となっており、メディア時間を減らしたにもかかわらず、児童が多いことがわかった。第2回目のスマイルカードの直前に、保健給食委員会が正しい生活リズムについて動画を作成し全児童に配信した。前回のスマイルカードも一緒に配付し、結果を比較しながら実施できるように表づけも行ったが、高学年で特定の児童が不規則な生活習慣を送っていると考えられる。	3	先生方に責任を負ってもらうのは心苦しい。保護者の問題が大きいのと思う。 早寝63%は低いと思う。児童すべし課題である。 現代の社会問題がそのまま表れていることが分かった。家庭への啓発の難しさを感じる。 睡眠、メディアは保護者がしっかりと関わる必要があると感じる。	前回の保護者用アンケートで、自分用の携帯電話を所持している児童が30%、メディアに関してルールを定めていない家庭が90%、という結果だったことから、保護者の管理下ではなく児童自身でメディアコントロールしていくことが求められる。引き続き、委員会活動等を通して児童一人ひとりが早寝やメディアについてその影響を理解し実践していくこと、保護者に対しては、メール配信・ほけんだよりでの発行を通して意識を高めてもらう必要がある。また、メディアに関して取り組む等、内容について検討し変更する予定である。	
信頼される学校	4	教職員が元気で、信頼される学校を創る。	・安心安全な環境づくりや保護者・地域との連携に努める。	・整理整頓され、創意工夫のある掲示や教室環境 ・学校、学級の様子を便りやSNSで発信 ・コミュニティ・スクールの推進	・保護者アンケート「環境整備について」 ・「情報発信について」	90%以上	環境整備 92.7% 情報発信 92.7%	99%	2	保護者アンケート「校外内外の環境が行き届いている」の肯定的評価は90.4%で目標値の90%を超えているが、9月より2.4ポイント下がっている。支那前の花が枯れていたり、草が伸びていたりしたことが、原因の一つではないかと思われる。 保護者アンケート「学校は、学校や子供たちの様子を学校だより、学級通信、ホームページなどでわかりやすく伝えたい」の肯定的評価は87.0%と目標値90%を下回った。下回った原因としては、ホームページの更新が一時的に遅くなったこと、ブログを更新している時期とあまり発信していない時期があったことが考えられる。	3	従来から、いろいろと地域連携に努めている。 教室に掲示物、本が多く、やや雑多な雰囲気がある。黒板は掲示物があり狭いと思う。 家庭の問題も大きいと思う。	委員会活動などで、学校支援ボランティアさんと呼びかけ、児童と一緒に花を植える活動をし、シルバー人材センターと連携したりなどで快適で安心安全な環境整備に努めている。 ブログの閲覧数が多いと思われるので、行事ごとにご報告を発信し、学校や児童の様子を伝えていく。	
			・効率的な業務を推進し子供と向き合う時間を確保する。	・学校行事の見直し、精選 ・週1回の定時退校日の設定 ・定時刻の教室の施設	・常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均を45時間以下とする。	年間平均45時間以下	4月〜9月の平均 34時間21分 4月〜1月の平均 38時間59分	115%	4	常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均は、38時間59分目標値を達成した。昨年と同様よりも減少しているが、9月より4時間38分伸びている。学期末の成績処理、陸上記録会や学習発表会に向けての準備等、業務の多さが原因と考えられる。	4	教職員の健康は、児童に影響するのでも、心と体の健康を大切にしていきたい。 成果が上がっていると思う。	勤務時間中も勤務時間外も、全て児童のための時間として使っているのでも、縮減は難しいが、行事等による教育効果が高まるように児童と向き合う時間を確保する。 一部の職員に業務が偏らないよう、教務部、保健安全部、生徒指導部の中で、組織的に業務を遂行するようにしていく。 週1回の定時退校日を徹底していく。 有休の数は、児童下校後できるだけ早く帰る。職員室でできる仕事は職員室で行うようにしていく。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」達成値/目標値を百分率で表示する。

■自己評価
 4...目標を上回って達成
 3...目標どりに達成
 2...目標をやや下回って達成
 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)
 A...とても適切である
 B...概ね適切である
 C...あまり適切でない